

世界が直面する「複合危機」顕著に

「フューチャリリスクレポート2023」日本語版発行

アクサグループ

アクサグループは3月14日、2023年10月に公表した第10版「フューチャリリスクレポート2023」の日本語版を発行したと発表した。同レポートは、世界50カ国の専門家約3500人と15カ国の一般市民約2

万人の代表サンプルを対象に、今後新たに生じうるリスクに関する認識を測定したものの。イフソス社の協力を得て制作しており、調査結果をもとにアクサグループの専門家がデータ分析を行っている。

今回の調査では「複合危機（ポリクライシス）」の概念が顕著となった。地政学的な緊

張、新たなテクノロジー（生成AIなど）の急速な台頭、地球温暖化の加速など、単発的ではなく同時多発的に起こっているとしてい

る。人工知能（AI）とビッグデータに関するリスクは、専門家のランキングで最も上昇幅が大きく、22年の14位から4位に上昇した。多くの専門家（64%）

と一般市民（70%）がAIの研究は中断すべきと考えている。サイバーセキュリティのリスクは、6年連続で専門家のランキングの上位に入っている。一般市民のランキングでも初めて上位3大リスクに入った。今回、「サイバー戦争」の要素が調査に盛り込まれたこと

で、専門家はこのテーマを地政学的不安定と密接に関連付けた。地政学的不安定は3位となった。

地球温暖化は昨年同様、専門家と一般市民のランキングいずれにおいても1位だった。今年、地球温暖化は初めて一般市民も含めて世界全ての地域ごとのランキングで全て1位となった。

脆弱性に対する意識は高止まりしており、専門家のうち5年前と比べて脆弱性を強く感じる割合は、国レベルで84%（20年：76%）、都市レベルで73%（20年：64%）に上る。この傾向は一般市民の間でも顕著で、脆弱性に対する意識は国・都市レベ

ルのいずれにおいても3年間で7%上昇している。

一方で、新たな世界的危機の影響の抑制に取り組む専門家や組織に対する信頼は高まっている。科学者を信頼する人の割合は専門家

で84%、一般市民で70%に上る。また、企業に対する信頼は、専門家（72%）前年比8%増）および一般市民（49%）前年比4%増）で、それぞれ上昇した。同時に、将来のリスクの影響を抑制

する上で保険会社の役割

が「重要」または「非常に重要」と考える人の割合は、専門家で93%（前年：89%）、一般市民で74%（前年：69%）に上る。

今回のレポートについて、アクサグループのトーマス・フベルCEOは「『フューチャリリスクレポート』は、複合危機の中にある世界に焦点を当てている。この3年間、パンデミックやウクライナ戦争、地球温暖化の深刻化に直面した。今回は、人工知能やサイ

バーセキュリティに關

連するリスクの拡大、地政学的不安定化を加えなければならない。世界規模の課題に直面している。私たちは未来をリスクであると考えるたくない。そのためには、科学者や科学の進歩に対する人々の信頼、そして企業、特に保険会社に対する人々の信頼を高めていく必要がある。今回の調査では、回答者の4分の3が保険会社は将来のリスクの影響を抑制できると考えている」とコメント。アクサ・ホールディングス・ジ

ヤパン執行役員チーフリスクオフィサーの河島鉄郎氏は、アジア太平洋・中東地域の特徴として「アジアの専門家は『将来の仕事に対する懸念』に注目している。アジアのみがトップ10位内（昨年の16位から9位に上昇）となり、その理由として『自動化』への懸念を挙げている。アジアは先端技術を先駆けて採用していることから、仕事への潜在的な影響についてより意識が高いことが要因と考えられる」と述べている。